

主要指標 (2022年1月速報値)

※請負は請負・委任の合計

【会員数(人)】		前年同月比較		【新入会員数(人)】		前年同月比較		【退会会員数(人)】		前年同月比較	
合計	703,772	(▲ 8,622)	合計	77,331	(+5,613)	合計	71,978	(▲2,904)			
男性	464,414	(▲ 6,914)	男性	47,580	(+3,362)	男性	45,345	(▲1,483)			
女性	239,358	(▲ 1,708)	女性	29,751	(+2,251)	女性	26,633	(▲1,421)			
【受注件数(件)】		前年同月比較		【就業延人員(人日)】		前年同月比較		【契約金額(千円)】		前年同月比較	
合計	2,887,511	(▲ 1,419)	合計	54,050,303	(+313,338)	合計	261,271,748	(+2,810,718)			
請負	2,836,757	(▲ 2,882)	請負	47,022,362	(+ 65,872)	請負	223,716,416	(+ 872,397)			
派遣	50,754	(+ 1,463)	派遣	7,027,941	(+247,466)	派遣	37,555,331	(+1,938,321)			

トピックス

SDGsの取組が外務省「JAPAN SDGs Action Platform」に掲載されました

最近、テレビや新聞で「SDGs」という言葉を目にした日はないくらいになってはいますが、自分やセンターの事業とは関係ないと思われる方もいらっしゃるかもしれません。

SDGsは、持続可能なよりよい未来を築くことを目標としていますが、これらの目標を達成するためには、各国政府による取組だけでは困難であり、企業やNPO/NGOなどの各種団体、地方自治体、教育機関、市民社会、そして私たち一人ひとりが、それぞれの立場で取り組んでいくことが求められています。

シルバー人材センターの事業とSDGs

人口減少、少子高齢化が進展している中で、だれもが、いくつになっても活躍できる社会の実現に向けて、地域の日常に密着した就業機会を提供することなどにより、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持増進、ひいては地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減などに貢献しているセンターの事業や活動など様々な取組は、SDGs (持続可能な開発目標) と深くつながるものです。 [裏の特集へ](#)

外務省「JAPAN SDGs Action Platform」に掲載

センターのSDGsに係る取組を一人でも多くの方々や自治体に知っていただくとともに、他のセンターのSDGsの取組の参考としていただくため、大阪府の四條畷市及び箕面市のセンター並びに全シ協においては、株式会社WorkVision様の協力を得て、**外務省「JAPAN SDGs Action Platform」**※にリンク掲載を申請し、審査の結果、今般、同Platformに掲載され、「SDGsジャパンロゴマーク」(下図左のマーク)の使用が認められました。

いずれも喫緊の課題である、会員・女性会員の拡大に加え、四條畷市センターでは、各種講習会の開催・参加、剪定木のチップ化によるゴミの減量化や農園事業の拡大に、箕面市センターでは、子供の一時預かり事業や福祉有償運送事業、ふれあい農園・体験事業に、また、全シ協では、センターの役割を十分に発揮していただくため、センター、連合本部と協力して、未設置市区町村の解消、新しい生活様式に対応した就業機会の確保、デジタル社会への対応など8項目について取り組むことによりSDGsを推進していくことを記載しています。[各ホームページをご覧ください]

SDGs(エスディーズ)とは

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの17のアイコンとSDGsカラーホイール



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

※ SDGsの認知拡大及びSDGsに係る具体的な取組の参考にしてもらうことを目的として、国内の企業・団体等の取組の中でSDGsとの関連を分かりやすく記載しているHPをリンク掲載しています。

特集

シルバー人材センター・連合本部・全シ協はSDGsを推進しています

センター・連合本部・全シ協（以下「センター等」）がSDGsに係る取組を対外的に明確にして取り組むことは、地域の住民の方々や自治体に社会への貢献を知っていただくとともに、センター等への信頼度の向上、さらには、会員拡大、就業機会の拡大、そして、自らも持続可能な組織へと発展することにもつながります。センター等で取り組んでいる主要な取組と対応するSDGsのゴールは下表のとおりです。

○ センター未設置市区町村の解消に努め、希望する高齢者が入会できる機会を増やす			○ 女性限定入会説明会、女性向けイベントの開催、女性会員拡大のための専門部会・委員会の設置			
○ 80歳を超えても活躍できる就業機会の創出に努める。また、就業することが困難になった会員の居場所としての機能を果たす			○ 女性向け就業機会の創出・確保			
○ 感染防止に配慮しつつ、新しい生活様式に対応して必要となる業務の発掘、新たな就業機会の確保に努める			○ シルバー事業の更なる推進に向けた関係機関との連携			
○ 適正就業ガイドラインに沿った業務運営			○ 地方自治体等との連携を強化し、地域貢献に取り組む			
			○ デジタル技術を活用した業務の効率化、新たな就業機会の確保に取り組む。また、会員及び高齢者のデジタルデバイドの解消に努める			
			[参考] 国際連合広報センター https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda			

SDGsに係る取組の推進

センターでは地域の課題解決に密接に関連したり、地域の自治体等の施策と連携した様々な独自事業やボランティア活動に取り組んでいただいておりますが、これまでご紹介した、「遊休地や耕作放棄地を活用した体験型農業」(ゴール2「飢饉をゼロに」)、「ごみ出し支援」(ゴール12「つくる責任つかう責任」)など、上の7つのSDGsのゴール以外のゴールに関連するものもたくさんあります。

ぜひ、日々の事業や活動がどのゴールに関連しているかご確認いただき、どのゴールに貢献できるか、目標をどうするかなど、役職員、会員の皆様のご理解をいただきながら、センターを挙げて持続可能な社会の実現に向けた取組を推進していただきますよう、よろしく願いいたします。

また、センターの活用は、「生涯現役社会の実現」の一助となるSDGsに係る取組であることを発注者に理解いただくことも取組の1つではないでしょうか。

SDGsに取り組んでいるセンターや連合では、ホームページや会報誌などにSDGsに係る取組を掲載したり、SDGsを原動力として地方創生に取り組んでいる自治体のSDGsパートナーやSDGs推進ネットワーク会員として活動するなどの取り組みを行っています。

<センター・連合本部のSDGsに係る取組事例>

ホームページ・会報誌から

[JAPAN SDGs Action Platform リンク掲載]

大阪府四條畷市SC、大阪府箕面市SC

[SDGsパートナー・推進ネットワーク登録]

北海道SC連合会、茨城県つくば市SC、いきいき埼玉、神奈川県小田原市SC、神奈川県相模原市SC、岐阜県SC連合会、愛知県豊橋市SC、三重県志摩市SC、岡山県井原市SC、岡山県倉敷市SC、岡山県真庭市SC
 [日本SDGs協会SDGs事業認定会員] 東京都町田市SC
 [SC版SDGsを広報紙に掲載] 鹿児島県さつま町SC
 [SDGsをテーマに映画制作] 大阪府門真市SC

全シ協からのお知らせ

- 「シルバー人材センターのための広報スキルアップ講座」が4月から始まります。第1回（月刊シルバー人材センター4月号）のテーマは「広報活動はコミュニケーション」です。
- 「介護予防（フレイル）に注目した調査研究」を実施しますので、ご協力をお願いします。シルバー人材センターでの様々な活動が、「フレイル」への移行防止や改善に有用であるかについて、会員と一般高齢者へのアンケートを通して明らかにします。対象センターは、今後決定します。